

経営比較分析表（令和6年度決算）

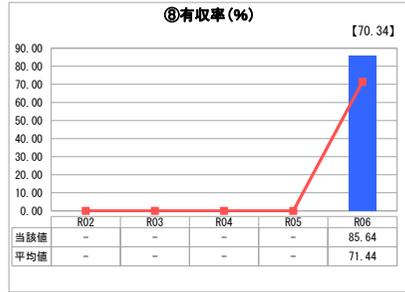
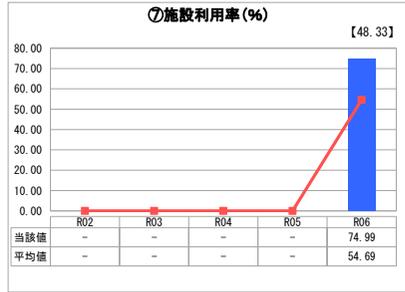
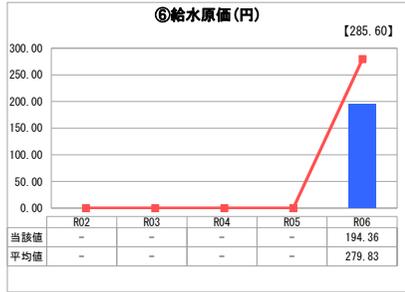
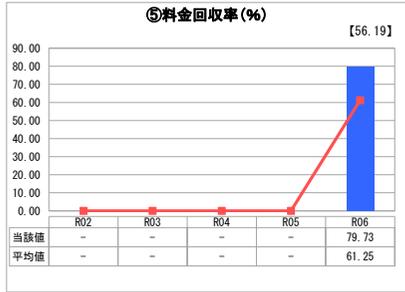
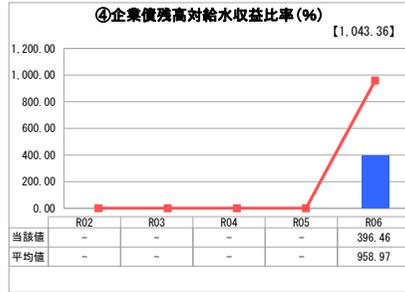
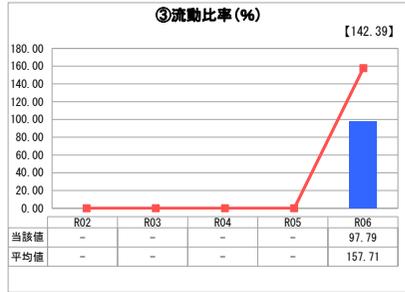
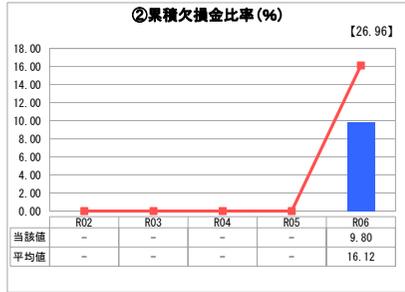
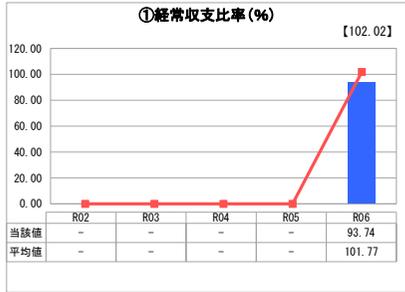
熊本県 玉東町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	65.97	90.71	3,130	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,158	24.33	212.00
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,668	8.35	559.04

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

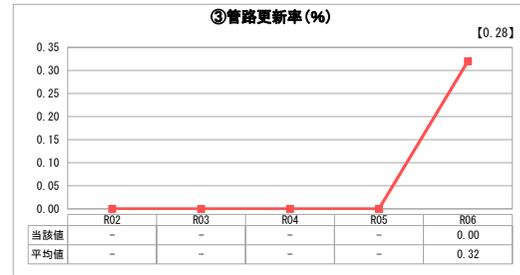
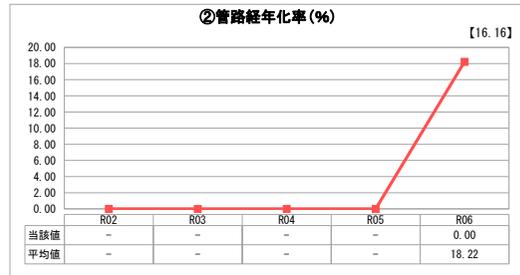
1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
収益で費用を賅えず、単年度赤字の状態。資金繰りを圧迫する主要因となっている。
- ② 累積欠損金比率
類似団体平均より低く、過去の負債蓄積は軽微であるが、現在の赤字が続けば悪化する懸念がある。
- ③ 流動比率
100%を割り込んでおり、手元の現金が短期的な支払義務に対して不足している。突発的な支出への耐性が弱く、資金ショート対策が必要となる。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
借入金残高は収益の約4年分と比較的少なく、将来の投資に対する財務的な余力はあると思われる。
- ⑤ 料金回収率
類似団体より高い水準だが、コストの約2割を一般会計繰入金で補填しており、独立採算には至っていない。
- ⑥ 給水原価
類似団体と比較すると下回っており、適正な数値であると思われる。これ以上のコスト削減は困難と考えられる。
- ⑦ 施設利用率
無駄がなく、適切な施設規模で運用できているといえる。
- ⑧ 有収率
類似団体と比較すると上回っており、良好な施設運営が行われている。

2. 老朽化の状況について

- ⑨ 有形固定資産減価償却率
類似団体平均値を下回っている。今後も施設や設備の経年化の分析を行いながら計画的な更新に努める必要がある。
- ⑩ 管路経年化率
法定耐用年数を越えた管路は無いが、一部の管路で漏水が発生していることから今後の計画的な更新が必要である。
- ⑪ 管路更新率
今後、一部の漏水管路についての更新計画を作成し、管路の健全性を確保していく。

2. 老朽化の状況



全体総括

管路経年化率は0%であり、有収率や施設利用率も高く、施設の健全性と運営効率性は比較的良好な状態にある。一方で、経常収支比率及び流動比率は100%を下回っており、収益性と資金流動性に課題がある。今後は、将来の更新需要を見据えた資金確保と、財務基盤の強化による持続可能な経営体制の構築が急務である。